「medicina」第19巻　総目次

1982年　第1号～第13号

数字は通巻頁数，（ ）内は号数，12号は臨時増刊特集号です．

〔今月の主題〕

内分泌疾患—今日の知識（1）

〈診断のすすめ方〉

低身長　高野加寿恵　6
低血糖症　大根田　昭　8
鉱質コルチコイドによる高血圧　猿田　享男　10
褐色細胞腫　佐藤　辰男　12
クッシング症候群　安田　圭吾・三浦　清　14
SIADH　斉藤　寿一　20
高プロラクチン血症　山路　徹　22
原発性副甲状腺機能亢進症　古川洋太郎　24
副甲状腺機能低下症　多久和　陽　26
Bartter 症候群　藤田　敏郎　30

〈検査値の読み方〉

TRH 試験，LH-RH 試験　斎藤　史郎　32
甲状腺ホルモン　稲田　満夫　34
副腎皮質ホルモン　宮地　幸隆　36

〈境界領域〉

腺腫様甲状腺腫　小原　孝男・藤本　吉秀　38
腫瘍マーカーとしてのホルモン　阿部　薫　42
Transsphenoidal Microsurgery　景山　直樹・桑山　明夫　44
Gonadal Dysgenesis, Tubular Dysgenesis　久貝　信夫　46
Anorexia Nervosa　末松　弘行　48

〈治　療〉

粘液水腫昏睡　小出　義信　50
バセドウ・クリーゼ　森　徹　52
抗甲状腺剤による無顆粒球症　紫芝　良昌　54
妊娠とバセドウ病　百渓　尚子　58

〈トピックス〉

ACTH 前駆体と γ-melanotropin (γ-MSH)　中井　義勝　61
出産後一過性甲状腺機能異常症　網野　信行　64
ホルモン作用とカルモデュリン　小出　義信　66
Malignant Hypercalcemia　岡崎　具樹・尾形　悦郎　68
Glucagonoma, Somatostatinoma, VIPoma　山口　建・阿部　薫　72

〈座談会〉

内分泌疾患の診療をめぐって　長瀧　重信・宮井　潔　福島　孝徳・尾形　悦郎　77
今月の主題・理解のための10題　長瀧　重信　92

感染症と免疫（2）

感染症の成立　秋山　武久　208

〈感染症の診断〉

発熱の鑑別診断　町野龍一郎　210
病態スクリーニング検査の考え方　河合　忠　214
血清診断　伊藤　忠一　216
エンドトキシン検査　河合　忠・田村　弘志　218
好中球機能検査　粕川　禮司・宮田　昌之　220

〈非特異的防御機構〉

オプソニンなどの血清因子　大国　寿士　225
インターフェロン　海老名卓三郎　228
NK 細胞　押味　和夫　230
食作用　安倍　千之　232
補体系　稲井　眞弥・赤垣　洋二　234
キニン系とその周辺　恩田　昌彦・代田　明郎　236

〈特異的防御機構〉

細菌感染　見明　俊治・武谷　健二　238
ウイルス感染　中尾　亨　240
粘膜の防御機構　川名　林治・宮杜　牧人　242

〈特殊な感染症〉

Opportunistic Infection　小酒井　望　244
病巣感染としての習慣性アンギーナ　斎藤　英雄・野田　寛　246
感染アレルギー　佐野　靖之・宮本　昭正　248
Slow Virus Infection　飛田　清毅　250
慢性肉芽腫症　松浦　良二・臼井　朋包　252
なまけもの白血球症候群　松浦　良二・臼井　朋包　254
Chediak-Higashi 症候群　赤羽　太郎　256

〈感染症の予防と治療〉

予防接種の現状　平山　宗宏　260
特異的 γ グロブリン製剤と適応　早川　浩　262
静注用 γ グロブリン製剤と適応　堀　誠　266

〈座談会〉

感染症と免疫をめぐって　南谷　幹夫・中尾　亨　秋山　武久・河合　忠　271
今月の主題・理解のための10題　河合　忠　284

リハビリテーションの現況（3）

最近のリハビリテーションをめぐって　佐々木智也　380
患者の評価法　大井　淑雄　382

〈治療法〉

理学療法　谷岡　淳　394
運動療法と治療体操　石田　暉・千野　直一　397
ハリ治療　井上　和彦　402
薬物療法—筋弛緩剤について　初山　泰弘　406
心理療法　崎尾　英子・河合　洋　408
言語治療　柴田　貞雄　412

〈補助用具〉

義肢と装具　武智　秀夫　414
車椅，杖，歩行器　加倉井周一　420

〈社会復帰〉

作業療法　福田恵美子　427
社会復帰の実際　五味　重春　432

〈疾患とリハビリテーション〉

脳卒中　福井　圀彦　436
脊髄障害　岩倉　博光　438
慢性関節リウマチ　菅原　幸子　440
腰痛症　米本　恭三　444
末梢神経障害　伊地知正光　448
筋疾患　中瀬　浩史・杉田　秀夫　452
心筋梗塞　石神　重信　454
呼吸器疾患　木田　厚瑞　456
精神障害　比賀　晴美　460

〈症候とリハビリテーション〉

排尿の障害　陣内　一保　464
血行障害と四肢切断　長尾　竜郎　468
視覚障害　中島　章・赤松　恒彦　472
聴覚障害　鈴木　淳一　476

〈座談会〉

リハビリテーション最近の話題　上田　敏・大川　嗣雄　明石　謙・横山　巌　大井　淑雄　479
今月の主題・理解のための10題　大井　淑雄　488

狭心症とその周辺（4）

冠不全の概念　村尾　覚・川久保　清　592
冠循環の薬理　今井　昭一　594
冠スパズムとは　延吉　正清・西村　健司　596

〈狭心症の種類〉

異型狭心症　片桐　敬・新谷　博一　600
不安定狭心症　木全　心一　602
安定狭心症の予後　加藤　和三　604

〈虚血性心臓病の診断〉

狭心症の問診　太田　怜　610
心電図
—Holter ECG モニターによるもの　道場　信孝　612
—運動負荷試験　杉下　靖郎　616
—虚血性心疾患にみられる脚ブロック　岡田　了三　619
—虚血性病変による不整脈

© IGAKU-SHOIN Ltd, 2013

2026/10/15 04:46:42

外畑　巖・平田　幸夫　623
ST・T 偏位
金沢　知博・小野　幸彦　628
心エコー図—動的運動負荷
松崎　益徳・楠川　禮造　632
心筋シンチグラム
西川　潤一・飯尾　正宏　636
冠状動脈造影法
須磨　久善・鈴木　章夫　639
〈治　療〉
虚血性心臓病の運動療法と食事指導
藤田　良範・長谷川武志　644
抗狭心症薬
鈴木　恵子・戸山　靖一　646
血小板凝集抑制剤の使い方
山崎　昇　648
AC バイパス手術の適応
伴　敏彦　651
バルーンカテーテルによる
冠動脈拡張術
山口　洋・細田　泰之　654
〈鼎　談〉
狭心症と無痛性虚血性心臓病の
薬物治療
春見　建一・村田　和彦
太田　怜　661
今月の主題・理解のための10題
太田　怜　671

血清リポ蛋白の異常（5）
血清脂質研究の動向　内藤　周幸　788
〈リポ蛋白と脂質の代謝〉
コレステロールとリポ蛋白代謝
秦　葭哉　790
トリグリセライドとリポ蛋白代謝
竹内　一郎　796
〈血清リポ蛋白異常症〉
高 chylomicron 血症と高
VLDL 血症　福井　巖　800
高 LDL 血症　中谷　矩章　804
家族性高コレステロール血症
馬渕　宏　806
Ⅲ型高脂血症　山内　喜夫　808
低 HDL 血症と低 LDL 血症
中井　継彦・笈田　耕治　810
LCAT 欠損症　加藤　泰一　814
〈リポ蛋白異常と各種疾患〉
胆石症　梶山　梧朗　816
膵　炎　佐竹　克介　818
脂肪肝　古賀　俊逸・辻　裕二　820
肥　満　丸浜　喜亮・引地　勲　822
糖尿病　赤沼　安夫　824
心筋梗塞　上田　正人　828
脳梗塞　村井　淳志　830
甲状腺機能低下症
加藤　督介・高林　洋一
伊藤　國彦　832
腎炎，ネフローゼ症候群
清水　隆　834
皮膚瘙痒症
小澤　明・大城戸宗男　836
角膜老人環，老人性白内障
沼尾智代子　838
〈カラーグラフ〉
目でみるリポ蛋白異常
—胆石，黄色腫，角膜老人環
梶山　梧朗・秦　葭哉
沼尾智代子　843
〈リポ蛋白をめぐるトピックス〉
癌とコレステロール　重松　洋　846
動脈硬化とプロスタグランディン
矢島　途好・沼野　藤夫　850
老化とコレステロール　武内　望　854
血栓と EPA　熊谷　朗　856
不整脈と遊離脂肪酸　山崎　昇　858
長寿と HDL コレステロール
板倉　弘重　862
脚気(様)症候群と過酸化脂質
木畑　正義　864
〈血清リポ蛋白代謝異常の治療〉
血清リポ蛋白異常の治療方針
山本　章　866
高 LDL 血症の治療法　葛谷　文男　868
高 VLDL 血症（低 HDL 血症を含む）
の治療法　南部　征喜　872
抗高脂血症剤と虚血性心疾患の
長期予防　都島　基夫　874
〈座談会〉
血清リポ蛋白—代謝と疾患
八杉　忠男・中谷　矩章
板倉　弘重・秦　葭哉　877
今月の主題・理解のための10題
秦　葭哉　891

癌治療の最前線（6）
外科治療の進歩　末舛　恵一　996
放射線治療の進歩
橋本　省三・近藤　誠　998
〈化学療法〉
新抗癌剤臨床研究の現況
小川　一誠　1002
ヌードマウスを用いた *in vivo*
抗癌剤感受性テストの意義
久保田哲朗　1004
腫瘍の微小循環特性に基づいた
昇圧化学療法
涌井　昭・佐藤　春彦　1007
抗癌剤の targeting
高橋　俊雄・山口　俊晴　1012
Transcatheter
Chemo-Embolization
神前　五郎・岡村　純　1014
〈免疫療法〉
癌免疫研究の現状　橋本　嘉幸　1016
インターフェロンの抗腫瘍性
雨貝　孝・岸田綱太郎　1018
monoclonal 抗体と癌治療
葛巻　暹　1022
monoclonal killer T cell
と癌治療　藤本　重義　1024
体液性免疫抑制因子の分析
漆崎　一朗　1026
癌治療と抗癌免疫能　西條　長宏　1030
〈トピックス〉
レーザー治療の適応と限界
早田　義博　1034
Biological Response Modifiers
(BRM) の概念　塚越　茂　1036
全身 hyperthermia
山中　直樹・加藤　信夫　1038
局所 hyperthermia　柄川　順　1042
癌転移の抑制　螺良英郎・他　1044
癌治療の指標としての腫瘍マーカー
服部　信　1046
〈集学的治療〉
消化器癌　岡崎　伸生　1048
肺　癌　大熨　泰亮　1050
白血病　大野　竜三・山田　一正　1052
乳　癌　冨永　健　1055
癌性心嚢炎
冨永　慶晤・新海　哲　1058
〈座談会〉
癌治療の進歩—基礎から臨床へ
新田　和男・仁井谷久暢
中島　聰總・西條　長宏　1061
今月の主題・理解のための10題
西條　長宏　1072

カルシウム代謝の基礎と臨床（7）
カルシウムの生体内分布と
その生理的役割　内川　厚司　1180
骨の形態と代謝回転
（リモデリング）　林　泰史　1182
〈カルシウム代謝とその調節〉
骨とカルシウム代謝　白木　正孝　1184
腎とカルシウム代謝　吉田　政彦　1186
腸管とカルシウム　森内　幸子　1188
筋とカルシウム　小浜　一弘　1190
〈カルシウム代謝調節ホルモン〉
副甲状腺ホルモン
大田喜一郎・岡本　幸春　1192
カルチトニン　森本茂人・他　1196
ビタミンD　松本　俊夫　1198
〈臨　床〉
血清カルシウム値の読み方
孫　孝義・古川洋太郎　1200
原発性副甲状腺機能亢進症
清水多恵子　1202
続発性副甲状腺機能亢進症
吉山　直樹　1204
副甲状腺機能低下症　岡野　一年　1206
偽性副甲状腺機能低下症
筒泉正春・他　1208
高カルシウム血症（癌に伴うもの）
大畑　雅洋　1212
骨粗鬆症　中井瑠美子　1214
骨ページェット病　林　泰史　1216
骨軟化症　下辻　常介　1218
腎性骨異栄養症　相澤純夫・他　1222
妊娠とカルシウム代謝　佐藤　和雄　1226
〈トピックス〉
癌とビタミンD
宮浦　千里・須田　立雄　1228
カルシウム拮抗薬
多田　道彦・門馬　正明　1230
カルシウム結合蛋白　奥　恒行　1232
〈座談会〉
カルシウム代謝のトピックス
富田　明夫・須田　立雄

2026/10/15 04:46:42

今井　昭一・折茂　肇 1235
今月の主題・理解のための10題
折茂　肇 1246

実地医に必要な臨床検査のベース（8）
〈座談会〉
臨床検査にまつわる諸問題
小酒井　望・河野　均也
阿部　正和・河合　忠 1374
＊　＊　＊
医療における臨床検査の役割
阿部　正和 1386
〈正しい採血〉
抗凝固剤の使い方　河野　均也 1388
採血部位　藤巻　道男・福武　勝幸 1392
食事の影響
村田健二郎・江川　宏 1394
体位の影響　玄番　昭夫 1396
保存・運搬の影響
土屋　達行・土屋　俊夫 1400
〈成績管理〉
成績管理の必要性と問題点
斉藤　正行 1402
技術的精度管理の方法　佐々木禎一 1404
日医精度管理調査の歩み
藤沢　正輝・舩山　玲子 1406
管理された検査データと臨床
竹内　和男 1410
〈正常値〉
集団正常値の分布型　久米　均 1412
集団正常値の求め方と性格
清瀬　闊 1414
個人正常値と個人差　北村　元仕 1416
臨床参考範囲とその意義
臼井　敏明 1420
〈生理的変動因子〉
性　差　宮地　隆興 1422
年　齢　大場　康寛 1426
日差，季節差　置塩　達郎 1428
運　動　井川　幸雄 1430
アルコール摂取　山崎晴一朗
梶原　敬三・陣内　冨男 1432
喫　煙　浅野　牧茂 1436
〈薬剤による影響〉
薬剤と臨床検査　林　康之 1440
尿検査への影響　林　康之 1444
血液検査への影響　菅野　剛史 1446
〈検査値の新しい利用法〉
予測値，パニック値とは
岡村　一博 1448
計量診断への利用—プログラムパッケージ活用のために　古川　俊之 1450

腎疾患診療のトピックス（9）
腎炎の分類の変遷と最近の概念
奈倉　勇爾・波多野道信 1550
学童の腎疾患と検診　北川　照男 1554
〈診　断〉
CT　川村　寿一 1558
超音波検査　川村　寿一 1564
RI（レノグラム）　小磯　謙吉 1574
腎生検—とくにIgA腎症　大野　丞二 1577
蛋白尿の分析
大山　邦雄・本田　西男 1582
〈薬物療法〉
ステロイド療法　酒井　紀 1584
免疫抑制剤
長沢　俊彦・北本　清 1588
抗凝固療法　東條　静夫 1590
降圧薬，利尿薬
飯野　靖彦・椎貝　達夫 1592
慢性腎不全に対する保存療法
小出　桂三 1594
〈透析療法〉
腹膜透析（CAPD）　石田裕一郎・他 1598
重曹透析　高橋　健・越川　昭三 1602
高Na透析　前田　憲志 1604
透析の合併症と対策　丸茂　文昭 1608
糖尿病性腎症
原　茂子・三村　信英 1610
膠原病による腎障害　詫摩　武英 1613
〈その他の治療法〉
血漿交換療法　雨宮　秀博 1616
腎移植と術前輸血　落合　武徳 1618
慢性腎不全に対する食事療法と管理
阿部　裕・他 1620
〈座談会〉
腎疾患最近の話題
酒井　糾・加藤　暎一
東間　紘・広瀬　賢次
杉野　信博 1623
今月の主題・理解のための10題
杉野　信博 1934

自律神経失調症—心身症としての考え方・扱い方（10）
自律神経失調症の概念　阿部　達夫 1752
〈自律神経失調症とは〉
学童期および思春期にみられるもの
岩波　文門 1754
成熟期および更年期にみられるもの
長谷川直義 1756
老年期にみられるもの
勝沼　英宇・他 1758
〈類縁疾患との鑑別〉
めまい　山崎　可夫 1762
頭　痛　安藤　一也 1764
動悸・不整脈　菊池　長徳 1766
全身倦怠　桂　戴作 1768
腹痛・下痢　中川　哲也 1770
性障害　河野　友信・玉井　一 1772
不　眠　筒井　末春 1774
登校拒否　阿部　忠良 1776
抑うつ　森　温理 1778
〈検査のすすめ方〉
簡易検査法—身体面　山口　剛 1780
簡易検査法—心理・社会面
深町　建 1784
専門的検査法　坪井　康次 1786
〈薬物療法〉
薬物治療の原則　中野　弘一 1788
薬物療法の位置づけ　石川　中 1790
循環器系症状に対して　篠田　知璋 1792
消化器系症状に対して　川上　澄 1794
神経・筋肉系症状に対して
山中　隆夫・野添　新一 1796
精神症状に対して　岩井　寛 1798
〈心理療法〉
一般医にできるもの　末松　弘行 1800
交流分析　杉田　峰泰 1802
〈予後と経過〉
治療経過に悪影響を及ぼす因子
樋口　正元 1804
予　後　難波　経彦 1806
予防的配慮　吾郷　晋浩 1808
〈座談会〉
心身症の現状と新しい動向
石川　中・川上　澄
樋口　正元・筒井　末春 1811
今月の主題・理解のための10題
筒井　末春 1822

高血圧症—今日の知識（11）
最近の動向　池田　正男 1928
〈成　因〉
遺　伝　菊池　長徳 1930
昇圧因子—ナトリウム　伊藤　敬一 1932
—カテコラミン・交感神経系
口井　正人・増山・善明 1934
—レニン・アンジオテンシン系
日和田邦男 1938
降圧因子—カリクレイン・キニン・プロスタグランディン系
久代登志男・梶原　長雄 1942
神経因子
—中枢神経系（CNS）　道場　信孝 1944
—調圧反射機能　斉藤　俊弘 1946
〈血行動態〉
心　臓　竹下　彰 1948
脳　畑　隆志・海老原進一郎 1950
腎　臓　池田　寿雄・石井　當男 1952
〈診断の進歩〉
日内変動と家庭血圧
栃久保　修・金子　好宏 1956
高血圧重症度分類の今日的意義
藤井　潤 1960
低レニン性高血圧と原発性アルドステロン症　福地　總逸 1962
血中カテコラミン測定法とその問題点　安達眞樹・他 1964
〈高血圧症と画像診断〉
心エコー　村松　準・上嶋　十郎 1948
CT　増田　善昭 1974
〈治　療〉
降圧剤の選び方
西尾　一郎・増山　善明 1976
境界型高血圧は治療すべきか
梶原長雄・他 1979
老年性高血圧
村田　和彦・市川　秀一 1982
悪性高血圧　尾前　照雄 1984
高血圧性緊急症　露崎　輝夫 1986
β遮断剤　河野　和記・荒川規矩男 1990
α遮断剤，α-β遮断剤
東海林哲郎・飯村　攻 1992
Ca拮抗薬
佐藤　孝一・青木　久三 1994
レニン・アンジオテンシン系阻害薬
荻原　俊男・熊原　雄一 1998

2026/10/15 04:46:42

中枢性降圧剤
木村　忍・三浦　幸雄 2000
降圧薬の副作用　武田　忠直 2002
高血圧患者の管理　中村　仁 2004
〈座談会〉
本態性高血圧症の治療をめぐって
中村　仁・海老原昭夫
猿田　享男・稲垣　義明 2007
今月の主題・理解のための10題
稲垣　義明 2020

内科医に必要な泌尿器科の知識（13）
泌尿器科最近の動向　石神　襄次 2470
〈内科的徴候〉
不明熱　阿曽　佳郎・田島　惇 2472
消化器症状　友吉　唯夫 2476
腰・腹部痛　大堀　勉 2478
高血圧　池上　奎一 2482
〈泌尿器科的徴候〉
肉眼的血尿
松田　稔・園田　孝夫 2484
尿混濁　大井　好忠 2486
排尿困難　三木　誠 2488
尿閉と無尿　田崎　寛 2490
頻　尿　坂本　公孝 2492
尿失禁　土田　正義・森田　隆 2496
インポテンツ　長田　尚夫 2500
〈検査法の知識〉
分腎機能検査法　川村　寿一 2502
前立腺触診　千野　一郎 2508
X線検査
多田　信平・加藤　仁成 2512
膀胱機能検査　小柳　知彦 2518
〈救急処置〉
導　尿　江藤　耕作 2520
膀胱穿刺　津川　龍三 2522
留置カテーテル法とその管理
熊澤　淨一 2524
〈治療とその考え方〉
膀胱炎症状　小川　秋実 2526
尿路感染症　名出　頼男 2528
前立腺炎　河村　信夫 2530
尿路結石の治療と予防　高崎　悦司 2532
老人の排尿障害　小柴　健 2534
〈座談会〉
内科医に必要な泌尿器科の知識
岡本　重禮・吉田　修
服部　孝道・町田　豊平 2537
今月の主題・理解のための10題
町田　豊平 2546

今月の焦点
神経因性膀胱の新しいとらえ方
安田　耕作・服部　孝道（1）122
プロスタグランディンの臨床的意義
鹿取　信・塩川　優一（2）315
Therapeutic Drug Monitoring の必要性とその意義
石崎　高志・河合　忠（3）508
Oncology とは何か
北原　光夫・片山　勲（4）706
痴呆の臨床をめぐって
長谷川和夫・東儀　英夫（5）920
コンピュータで広がる医療
土肥　一郎・三宅　浩之
開原　成允・浅原　朗
坂部　長正（6）1102
脳の左右差—どこまでわかっているか
杉下　守弘・岩田　誠（8）1480
性病の現況と新しい考え方
小野田洋一・岡本　昭二（9）1668
ツベルクリン反応の新しい応用—免疫機能の簡便な指標として
泉　孝英・桂　義元（11）2025
遺伝子工学—その基礎と臨床応用へのポテンシャル
井川・洋二・河合　忠（13）2582

特別企画：非ホジキンリンパ腫の分類と治療
非ホジキンリンパ腫の分類
片山　勲（7）1351
非ホジキンリンパ腫の治療
北原　光夫（7）1358

カラーグラフ：臨床医のための腎生検—糸球体病変／坂口　弘
1. 正常の糸球体と微小変化（1）98
2. 膜性糸球体腎炎（腎症）（2）288
3. メサンギウム増殖性糸球体腎炎（3）492
4. 膜性増殖性糸球体腎炎（4）680
5. 膜性増殖性糸球体腎炎 type Ⅱ（5）896
6. 管内増殖性糸球体腎炎（6）1076
7. 半月体性糸球体腎炎，管内管外性糸球体腎炎（7）1252
8. IgA 腎症（8）1454
9. ループス腎炎（9）1638
10. 糖尿病性糸球体硬化症（10）1828
11. アミロイドーシス（11）2024
12. 巣状病変（13）2554

演習：目でみるトレーニング
高橋　和郎，馬杉　洋三
瀧野辰郎・他，小林　直紀
河合　健（1）101
片山　勲・他，遠藤　光夫
北原　光夫，村松　準（2）291
小林　直紀，馬杉　洋三
片山　勲・他，廣瀬　和彦
村松　準（3）495
高橋　和郎，朝田　康夫
遠藤　光夫，村松　準
重広世紀子（4）683
北原　光夫，飯高和成・他
重広世紀子・他，村松　準・他（5）900
飯高和成・他，奥野忠雄・他
村松　準・他（6）1080
片山　勲・他，村松　準・他（7）1256
藤本　吉秀，真柴　裕人
村松　準・他（8）1458
村松　準・他，藤本　吉秀
真柴　裕人，吉川　純一
植川和利・他，加藤　陽一（9）1642
吉川　純一，北原　光夫
浜野　恭一，高守　正治
村松　準・他（10）1831
井上　清・他，坪川　孝志
植川和利・他，村松　準・他
浜野　恭一（11）2027
高木　康行，戸田行雄・他
青木　正和，井上　清・他（13）2557

画像診断
心臓の CT／太田　怜・林　建男
1. 正常 CT 像（1）108
2. 心房の拡張（2）298
3. 弁の石灰化（3）502
4. 心室瘤（4）690
5. 大血管の変化（5）906
6. 大動脈炎症候群（6）1086
7. 心膜炎（7）1262
8. 濃度増強法（8）1464
9. 心室瘤（Ⅱ）（9）1650
10. 心筋症（10）1838
11. 心腔内血栓（11）2034
12. 動脈瘤（13）2564

画像診断と臨床
婦人科疾患（2）—卵巣腫瘍
森本　紀・多田　信平
川上　憲司（1）113
縦隔腫瘍
小林　進・福田　国彦
川上　憲司（2）303
休　載（3）
心大血管（Ⅰ）
小林　進・福田　国彦
川上　憲司（4）697
同　上（Ⅱ）
中山　陽・多田　信平
川上　憲司（5）911
肺疾患（Ⅰ）—肺癌
中山　陽・多田　信平
川上　憲司（6）1093
心大血管（Ⅲ）
鈴木　茂・原田　潤太
川上　憲司（7）1267
同　上（Ⅳ）
鈴木　茂・原田　潤太
川上　憲司（8）1467
脳腫瘍
田口　芳雄・木野　雅夫
川上　憲司（9）1657
脳血管障害
田口　芳雄・木野　雅夫
川上　憲司（10）1847
肺疾患（Ⅲ）
山田　治男・多田　信平
川上　憲司（11）2041
高血圧症
山田　治男・多田　信平
川上　憲司（13）2573

2026/10/15 04:46:42

講　座

図解病態のしくみ　消化器疾患／松枝　啓

23. Parenteral & Enteral Nutrition (2) Protein Calorie Malnutrition (1) 137
24. 同　上(3)—同　上(その2) (2) 331
25. 同　上(4)—必要カロリー量・蛋白質量の算出法と合理的治療法の選択 (3) 523
26. 同　上(5)—Protein-Sparing Therapy (4) 719
休　載 (5)
27. Parenteral & Enteral Nutrition (6)—Peripheral Parenteral Nutrition (6)1119
28. 同　上(7)—Central Parenteral Nutrition (7)1279
休　載 (8)
29. Parenteral & Enteral Nutrition (8)—Enteral Hyperalimentation(1) (9)1685
30. 同　上(9)—同　上(2) (10)1859
31. 同　上(10)—同　上(3) (11)2083
32. 同　上(11)—同　上(4) (13)2615

図解病態のしくみ　臓器循環／須永　俊明

1. 冠循環
—解剖，生理・病態生理のまとめ (1) 145
2. 脳循環
—解剖，生理，病態のまとめ (2) 337
3. 腎循環
解剖，生理，病態生理のまとめ (3) 529
4. 肺循環
—解剖，生理，病態のまとめ (4) 729
休　載 (5)
5. 肝循環
—解剖，生理，病態のまとめ (6)1127
6. 胃・腸管の循環
—解剖，生理，病態生理のまとめ (7)1287
7. 四肢末梢循環
—皮膚・筋の循環のまとめ (8)1493

臨床薬理学　薬物療法の考え方／中野　重行

10. 臨床薬効評価(2) (1) 153
休　載 (2)
11. 臨床薬効評価(3) (3) 537
休　載 (4)
休　載 (5)
休　載 (6)
12. 臨床薬効評価の問題点 (7)1301
13. 腎機能障害時の薬物投与法(1) (8)1501
休　載 (9)
14. 腎機能障害時の薬物投与法(2) (10)1865
休　載 (11)
15. 腎機能障害時の薬物投与法(3) (13)2597

異常値の出るメカニズム　酵素検査／玄番　昭夫

45. γ-グルタミントランスペプチダーゼ (γ-GTP) (1) 161
46. 血清酸ホスファターゼ (2) 349
47. 血清コリンエステラーゼ (3) 543
48. 血清5′-ヌクレオチダーゼ (4) 735
49. 血清アミラーゼ (5) 931
50. 血清 LAP と CAP (6)1133
51. 血清 α-ヒドロキシ酪酸脱水素酵素 (HBD) (7)1293
52. 血清リパーゼ (8)1509
53. 血漿リポ蛋白リパーゼと LCAT (9)1693
54. 血清モノアミンオキシダーゼ (MAO) (10)1875
55. 血清アルドラーゼとイソクエン酸脱水素酵素 (IGD) (11)2071
56. 血清 OCT とグルタミン酸脱水素酵素 (GLDH) (13)2603

コンピュータの使い方

1. 歴史と現況，コンピュータへのアクセス
坂部　長正・開原　成允 (7)1309
2. 医事業務システム
—医療料金計算と保険請求
三宅　浩之 (8)1515
3. 病院管理，オフィス・オートメーション　三宅　浩之 (9)1701
4. 病歴管理におけるコンピュータの利用　坂部　長正 (10)1881
5. 統計解析　土肥　一郎 (11)2077
6. 情報検索　開原　成允 (13)2614

外来診療・ここが聞きたい

急速進行性を思わせる慢性糸球体腎炎
杉野　信博・村山　正昭 (1) 182
尿路感染をくり返す片側尿管拡張
杉野　信博・村山　正昭 (2) 370
自律神経障害が考えられる不整脈例
井上　清・村山　正昭 (3) 568
大動脈弁置換術後，頭痛と顔面麻痺のある例
井上　清・村山　正昭 (4) 740
結核の既往がある肺機能不全例の管理
岡安　大仁・村山　正昭 (5) 940
慢性気管支炎に併発する喘息の薬物療法
岡安　大仁・村山　正昭 (6)1116
高血圧のあるパーキンソン病の例
大友　英一・村山　正昭 (7)1318
糖尿病に合併した末梢神経障害の例
大友　英一・村山　正昭 (8)1524
高齢発症の慢性関節リウマチの外来治療
塩川　優一・村山　正昭 (9)1708
リウマチ熱の考え方・扱い方
塩川　優一・村山　正昭 (10)1908
小児の急性虫垂炎のプライマリ・ケア
牧野　永城・村山　正昭 (11)2094
末期癌患者の在宅医療
牧野　永城・村山　正昭 (13)2624

診療基本手技

輸液量と点滴速度との関係
高尾　信廣 (1) 175
直腸指診のポイント
西崎　統 (2) 312
点滴セットを用いた腹水採取法
藤田　善幸 (3) 401
中心静脈カテーテルの挿入法
高尾　信廣 (4) 608
中心静脈カテーテルの管理
高尾　信廣 (5) 938
大伏在静脈カットダウン
高尾　信廣 (6)1140
尿道カテーテルの挿入法
高尾　信廣・西崎　統 (7)1316
留置尿道カテーテルの管理
高尾　信廣・西崎　統 (8)1522
経口的気管内挿管
吉岡　成人・西崎　統 (9)1706
Sengstaken-Blakemore tube (S-B 管) の挿入法と管理
高尾　信廣・西崎　統 (10)1888
動脈血ガス分析の手技と要点
吉岡　成人・西崎　統 (11)2092
骨髄穿刺のコツと注意点
吉岡　成人・西崎　統 (13)2622

米国家庭医学の発展／木村　隆徳

1. 家庭医の訓練はお粗末か
—米国家庭医学専門医の診療の実態 (9)1682
2. 家庭医学は GP への逆行か
—家庭医と一般医の相違 (10)1904
3. 家庭医学はなぜ必要か
—家庭医学の信憑性 (11)2112
4. プライマリ・ケアの普及をなにが阻害しているか
—GP レジデンシー失敗の教訓 (13)2634

CPC

高血圧症，右片麻痺で入院，高レニン血症，著明な蛋白尿を呈し，諸種の治療に抗し，消化管穿孔等を併発して死亡された30歳の男性
吉田　象二・鈴木　良一
浅田　学・唐沢　秀治
長尾　孝一・熊谷　朗
伊良部徳次・高橋　力
奥田　邦雄・近藤洋一郎
橋本　博史・安　徳純
諸橋　芳夫・重松　秀一
斎木　茂樹・秋草文四郎 (1) 189

52歳時より慢性関節リウマチを罹い，咳嗽，息切れ，微熱を主訴として入院した61歳男性の例
諸橋　芳夫・斎藤　陽久
山口　一・浅田　学
鈴木　良一・安達　元郎
登　政和・石井　志博
今井　賢二・吉田　象二
塚本　俊彦・住田　孝之
関　保雄・吉沢　熙
野辺地篤郎・本間　日臣
熊谷　朗・斎木　茂樹
山中　晃 (3) 573

6年前より肺結核の治療を受け，やがて下肢浮腫，身体の違和感などを訴

2026/10/15 04:46:42

えて来た58歳男の例
桜井　幸弘・伊藤　隆志
中山　大典・酒井　文和
井上　寛一・河本　和行
桜林　　耐・五味　朋子
亀谷　　寛・佐多徹太郎
黒沢　崇四・池田　隆夫
土谷　春仁・三室　　淳
伊藤　慎芳・石河　利隆
池上　文詔（5）974
下壁梗塞に完全房室ブロック，心不全を合併し，急性期に死亡した56歳女性の例
角田　興一・鏡味　　勝
高橋　正志・小方　信二
稲垣　義明・鈴木　　勝
小川　芳信・金子　重夫
住田　孝之・斎木　茂樹
竹内　信輝（7）1325
上腹部痛，黄疸，無尿を主訴とし，発症から10日ほどで死亡した63歳男性の例
藤田　道夫・小高　通夫
浅田　　学・安達　元郎
野水　　眞・登　　政和
吉田　象二・奥田　邦雄
小方　信二・中村　和之
長尾　孝一・村上　信乃
近藤洋一郎・井出源四郎
佐藤　勝則・松崎　　理
伊良部徳次（9）1729
人工妊娠中絶後下血が持続し，その後突然頭痛・嘔吐，意識消失した28歳主婦の例
佐藤　勝則・奥田　邦雄
大谷　　彰・村上　信乃
近藤洋一郎・小方　信二
安　　徳純・安達　元郎
押尾　好浩・石毛　英男
富田　　伸・吉沢　　熙
熱田　英雄・針原　　康
長尾　孝一・登　　政和（10）1911

第166回呼吸器臨床談話会
Coin lesion の鑑別診断をめぐって
北村　　諭・森成　　元
岡安　大仁・岩井　和郎
杉山幸比古・田中　元一
芳賀　敏彦・細川　芳文
鈴木　　光・谷合　　哲
巽　浩一郎・工藤　翔二
鈴木　俊雄・和泉　孝志
和穎　房代・林　隆司郎
白木るい子・松井　泰夫（4）744

がん免疫振興財団シンポジウム「末期患者に対する積極的治療」から
（その1）癌免疫療法の現状
西條　長宏（5）963
（その2）癌の内分泌療法の現況
—乳癌を中心に　熊岡　爽一（6）1160
（その3）末期癌患者の取り扱い方
筒井　末春（6）1164
（その4）癌末期の疼痛除去について
村山　良介（6）1170

特別掲載
日本におけるバイオフィードバック研究—治療と教育に関して
平井　　久（13）2637

VIA AIR MAIL
木戸　友幸（1）178
木戸　友幸（2）364
木戸　友幸（3）562
芦澤　哲夫（4）762
芦澤　哲夫（5）958
福原　俊一（6）1152
休　載（7）
福原　俊一（8）1534
福原　俊一（9）1722
福井　次矢（10）1900
福井　次矢（11）2108
福井　次矢（13）2630

天地人
武士の情　天（1）169
嘘かまことか　聖（2）355
論議の真贋　越（3）551
203高地　天（4）767
エリーゼは，いま　聖（5）947
女性と肩書き　越（6）1143
スキンシップ　天（7）1339
借金考　天（8）1529
印刀さばき　聖（9）1713
わが身をツネって人の痛さを知れ　光（10）1891
漢語雑感　月（11）2099
兎（ウサギ）雑感　猫（13）2629

オスラー博士の生涯／日野原重明・他
102. 科学のパン種（その1）—ペンシルバニア大学のウィスター解剖・生物学研究所開所式での講演(1894年)（1）170
103. 同　上（その2）（2）356
104. 結束，平和，ならびに協調—メリーランド州内科外科医師会の総会での告別講演（1905年）（3）552
105. 古き人文学と新しき科学(その1)—1919年5月，オクスフォードでの古典協会の会長講演（4）768
106. 同　上（その2）（5）948
107. プラトンが描いた医術と医師(その1)—1898年 Johns Hopkins 病院医史クラブ例会にて（6）1144
108. 同　上（その2）（7）1340
109. 結びの言葉 L'Envoi (1905年)（8）1530
110. トマス・ブラウン卿（その1）人物について—1905年10月12日ロンドン市 Guy's Hospital の Physical Society での講演（9）1714
111. 同　上（その2）著書「医師の信仰」および（その3）評価（10）1892
112(最終回) ウィリアム・オスラー博士の著述とオスラーに関する文献（11）2100

ECHO
（4）780
（5）988
（6）1071
（7）1367
（8）1542
（9）1681

表紙の解説
甲状腺髄様癌　藤本　吉秀（1）2
Chediak-Higashi 症候群における白血球の特徴ある封入体
赤羽　太郎（2）205
サイベックスによる等運動性訓練
大井　淑雄（3）382
タリウム心筋シンチグラム
太田　　怜（4）589
純コレステロール結石
二川　俊二（5）785
ヒト胃癌株を担癌したヌードマウス
河村　栄二・久保田哲朗（6）993
Photon absorption method
折茂　　肇（7）1177
赤血球凝集像のいろいろ
河合　　忠（8）1371
尿沈渣所見のいろいろ
杉野　信博（9）1547
箱庭療法　筒井　末春（10）1749
手持用電気式血圧計
栃久　保修（11）1925
死をみとる中世の医師
町田　豊平（13）2467

2026/10/15 04:46:42